



国臨協関信

HP アドレス : <https://kanshinshibu.org>

関信支部ニュース第 225 号 令和 3 年 8 月

- 事務局 / 〒162-8655 東京都新宿区戸山1-21-1
国立国際医療研究センター病院
中央検査部門内
- 発行者 / 吉田茂久
- 編集委員 / 椎名将昭 竹内智也
屋良朝仁 中嶋菜緒美
- 印刷所 / 一喜堂印刷 ☎0268-35-2624

第49回

国臨協関信支部学会

挑

～臨床検査に今出来ること～

戦

開催方法：ライブ配信(Web)+ オンデマンド配信

開催期間： **ライブ配信**

2021 年 9 月 4 日(土)

・ 8 : 30 ～ログイン開始

・ 8 : 58 ～開会式

オンデマンド配信

配信期間 2021 年 9 月 6 日(月) 10 : 00 ～(予定)

2021 年 9 月 12 日(日) 16 : 00 (予定)

学 会 長：吉田茂久 (国立病院機構 渋川医療センター)



お問い合わせ

国臨協関信支部 事務局 〒162-8655 東京都新宿区戸山1-21-1
国立国際医療研究センター病院中央検査部門内
E-mail: kanshin@kanshinshibu.org

第49回国臨協関信支部学会日程表

今年度は Zoom ウェビナーを使用し開催します。
あらかじめ Zoom アプリを PC・スマホ等にダウンロードいただく必要があります。

8:30	《ログイン開始》(8:30~8:58)
	《開会式》(8:58~9:00)
9:00	《一般演題》1~6(9:00~10:02) 臨化・免疫・輸血・病理
10:00	《一般演題》7~12(10:02~11:04) 微生物・チーム医療・医療安全・その他
11:00	《一般演題》13~18(11:04~12:06) 生理検査(1)
12:00	《一般演題》19~23(12:06~12:58) 生理検査(2)
13:00	休 憩(12:58~14:00)
14:00	《学会企画》学術委員会による分科会(14:00~15:20) 「不規則抗体検査(スクリーニング・同定)の手順と注意点」 担当：輸血検査部門
15:00	「病理検査の安全管理～インシデント事例から学ぶ安全管理～」 担当：病理検査部門
	《学会セレモニー・閉会式》 (15:20~)
16:00	



支部長挨拶

国立病院臨床検査技師協会 関信支部 支部長 吉田 茂久



平素より国立病院臨床検査技師協会関信支部 に対しまして格別のご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。この度、「第49回国立病院臨床検査技師協会関信支部定期総会の書面における表決」におきまして、令和3年4月をもって退任されました前支部長岩崎康治様の後任として会員の皆様方 からご承認をいただき、支部長を拝命いたしました吉田茂久（前国臨協関信支部副支部長）でございます。支部長の重責を全うできるか些か不安ではありますが、皆様方のご支援とご協力を頂き、微力ながら全力を尽くしてまいりたいと気持ちを新たにしております。もとより浅学非才の身でありますので、今後とも皆様方のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

さて、本年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響に伴い「第49回国立病院臨床検査技師協会関信支部定期総会」の集合（対面）型による開催を見送り、「書面における表決」を行うスタートとなりました。今期の会務につきましては、会員の皆様方にご承認頂きました「令和3年度事業方針」に基づき運営してまいります。本会の目的である「臨床検査業務や研究分野に従事する臨床検査技師等の学術と技術の向上ならびに地位向上を図る」ことを柱として、地区会、国臨協本部、技師長協議会ならびに各種関連団体との連携・協同をこれまで以上に強化し、つながりの輪を広げながら事業を推進してまいります。

支部といたしましては「事務管理の見直しなどによる効果的な運営」「会員の皆様方が参加・利用しやすい環境の整備」「支部運営の合理化による経費の削減」などに積極的に取り組みながら、「医師に対するタスク・シフト／シェアに基づく研修会・実技指導」や「職能向上及び職能拡大（認定資格など）につながる研修会・実技指導」についても取り組み、会員の皆様方に支部ニュース、国臨協関信支部ホームページ、施設連絡者へのメール配信などを通じて迅速な情報提供をさせていただきます。また、今後とも変化し続ける社会情勢へ柔軟に対応するため、新たにWeb会議システムやオンデマンド配信を導入して会員の皆様方には相互のネットワーク強化と向上を図ります。大いにご活用いただき、学術および技術振興の支援や会員交流の場として文化活動の推進などにお役立ていただければと思います。

最後になりましたが、「会員ファースト」と「つながりの輪を広げる」を念頭に事業方針の達成に努めてまいりますので、会員の皆様方の力強いご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。支部長就任のご挨拶とさせていただきます。

前支部長退任挨拶

NHO 埼玉病院 岩崎 康治



会員皆さまから多大なるご理解とご協力を賜りながら、平成30年度から3期に渡り支部長を務めさせていただき、この程退任いたしましたので一言ご挨拶申し上げます。

会員のご理解と素晴らしい仲間に使われた3年間であります。就任1年目は支部学会会場の確保から始まったのを思い出します。恒例の国立国際医療研究センター病院が都合により使用できないことで、予定通りの開催と運営ができるのかと不安が先にたったものでした。案の定、部屋数は確保出来たものの使用時間の制限とシステムの不具合によりご迷惑をお掛けしたのを鮮烈に覚えています。その反省もあり、2年目はシステム運営を外部委託する方針を打ち出し開催させていただきました。その成功例をそのまま引き継ぎ3年目と思った矢先に新型コロナ感染症による影響が襲ってきました。まさかこんなことにはなるとは思いもせず、今年の定期総会、合同交流のみならず計画していた研修会、ビアパーティそして担当支部として準備をしていました第74回国立病院総合医学会関連行事まで中止に追い込まれました。支部学会は開催形式を変更し何とか開催した体にはしましたが支部活動の殆どが計画倒れとなる事態となり会員の皆様には本当にお詫びを申し上げるしかございません。

コロナ禍2年目となる今年度は新しい支部活動を吉田支部長に託し、既に新しい試みが始まったと伺っております。

会員数は、就任当初の599名から毎年増えて、昨年10月現在で676名を数えました。実は育児休暇等の休会者を含めると700名を超えるまで関信支部は成長してくれました。これも各施設そして関信支部の結束力の賜物ではないかと思っています。関信支部はこれからもさらに成長し続けるものと信じてやみません。

新型コロナ感染症の影響は底知れないものと思い知らされた最後の1年が悔やみます。終息の兆し見えない状況で、吉田支部長はじめ新執行部にとっても苦労続く活動となるかと思います。しかし、新しい力できっと会員皆様のために頑張ってくれることを期待するとともに関信支部の発展に寄与してくれるものと確信しています。

最後に会員皆様のご健闘とご多幸を祈念しまして退任の挨拶といたします。本当にありがとうございました。

専門職挨拶

NHO 関東信越グループ
医療担当臨床検査専門職

前島 基志



この度、4月1日付で独立行政法人国立病院機構関東信越グループ医療担当臨床検査専門職を拝命いたしました前島基志でございます。今回、本紙面をお借りして皆様へ就任のご挨拶の機会をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。どうぞよろしくお願いいたします。

前臨床検査専門職であられました北沢敏男技師長におかれましては、新型コロナウイルス感染症の流行・拡大する中、関東信越職員のため3年間ご尽力いただきましたことに、心より感謝申し上げます。

私の出身は長野県で、現在は千葉に居住しておりますが、千葉在住が30年以上となり、どちらも大切な愛着のある地となっています。そして、勤務地も長野県、千葉県、東京都、そして現在の茨城県の施設と、関東信越管内を行き来する中で、今回この関東信越全体を視野に入れての職務となり、身の引き締まる思いでございます。

さて、国立病院機構は第四期中期計画の「変革期」にあります。各施設においても、新型コロナウイルス感染症拡大に伴ったPCR検査への対応や、医師の働き方改革に伴うタスク・シフト／シェアの観点での業務拡大、新たなチーム医療への参画などが求められていると思います。そして、昨年度は開催が見合されていた地区会や学術集会等も、今年度は新たな形式での開催も始まっており、まさに現在は変革の真っただ中であると言えるのではないのでしょうか。この様な状況下で、職員一人ひとりが変革を自覚して、新しい検査室構築に向けて力を合わせて頑張れるよう、研修事業や人員調整に微力ながら精一杯努めてまいります。

最後になりますが、未だ直接お会いしてお話をさせていただくことは中々叶いませんが、新たな対応形式で皆様との絆を深めることが出来ればと思っております。そして、皆様におかれましては、心と体の健康を保ちながら幸せで充実感のある毎日を過ごしていただきまして、より良い仕事に繋げていただけますようお願い申し上げます。

前専門職退任挨拶

NHO 東京医療センター

北沢 敏男



令和3年4月1日付をもちまして、独立行政法人国立病院機構関東信越グループ医療担当臨床検査専門職の併任が解除され、前島基志臨床検査専門職にその職を託すことになりました。

平成30年4月1日、甲府病院への異動と同時に併任が発令され、不安と重責を感じながらの出発となりましたが、無事勤め上げることが出来ましたことは、前機構本部臨床検査専門職をはじめ国臨協・技師長協議会、関信支部役員の方々、そして各施設の臨床検査技師長並びに臨床検査部門に勤務する職員の皆様からご支援・ご協力を賜りましたお陰と、心より感謝し、厚く御礼を申し上げます。

併任期間中、団塊の世代の大量退職とともに、次世代を担う現40歳代職員が不足している状況を鑑み、人材育成を喫緊の課題と位置付けて研修事業に取り組みました。関信支部との事業としてキャリアアップ研修、技師長協議会との事業として主任臨床検査技師育成研修および、スキルアップ研修を人材育成の三本柱として実施して参りました。これらの研修を含め、各種グループ主催の研修会に参加していただいた皆様と交流する中で、「明るい未来を描ける」と心強く感じました。

また、関信支部役員と共に、各地区会に伺ったことも、大変貴重な経験でした。昨今は集合研修ができない状況となっておりますが、Face to Faceの交流がいかに貴重であるかについて、改めて感じています。

併任解除と同時に、東京医療センターへ異動し、独立行政法人国立病院機構本部医療部医療課臨床検査専門職を併任することとなりました。新たな不安と重責を感じておりますが、これまで以上に努力して参りますので、何卒よろしくお願いいたします。

立場は変われども、関信支部の一会員です。新たな気持ちで、支部活動を応援して参りたいと思います。また、後任の前島専門職には、人流抑制下での研修開催や、法改正など厳しい時期に専門職業務を託すこととなります。会員の皆様には私同様多大なるご支援とご協力を是非ともお願い申し上げ、退任の挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。

多磨全生園における 新型コロナウイルス感染症対応

国立療養所多磨全生園
平本 研二



当園は、Tokyo2020 オリンピックセレブレーション会場になっていました。

2020年7月14日に市内を聖火ランナー（志村けんも走る予定でした）が走りその最終地点が当園です。20時くらいよりTokyo2020オリンピックセレブレーションが盛大に開催される予定でした。しかし、新型コロナウイルス感染症の発生で状況が一変しました。

事の始まりは、中国湖北省武漢で始まった新型コロナウイルスの感染拡大です。2020年1月29日から政府チャーター機による邦人帰国が実施されました。これにより内閣官房から当園に対して帰国者医療支援の要請がありました。その時は、具体的な業務内容などの提示はありませんでした。勤務地は埼玉県和光市の国税庁税務大学校和光寮です。検査技師は災害対策現地情報連絡員として2020年2月8日～14日まで和光寮医療班として勤務になりました。構成は、医系技官1名、看護系技官2名、内閣事務官2名、自衛隊（医師1名、看護師2名）、感染対策チーム（国際医療福祉大学医師等）DMAT、DPAT、災害対策現地情報連絡員です。

その後、成田空港検疫所で始まった帰国者PCR全数検査の鼻咽頭検体採取として2020年5月、11月後半～12月、2021年3月と応援依頼に応じてきました。（現在も成田空港検疫所検疫課併任辞令継続中です）

一方、園内でも積極的に新型コロナ対応に参画しています。

新型コロナ対策では、入所者127名（男56名、女71名、平均年齢86.9歳）と職員が対象となります。職員の対策については他の医療機関で行われていることと変わりはないと思います。

入所者に対しては、ステージに沿った外部との接触規制、内部レクリエーション（カラオケ・焼き芋会・サンマ会等）の規制を行っています。あくまでも孤立させず、レクリエーションも行うにはどうするかという方向で検討しています。

新型コロナ対策で隔離という言葉が使われますが、ハンセン病の長い歴史の中で差別的に使用されてきた隔離という表現はできるだけ使用せず、個室管理としています。

入所者は、住居として独立または個室で生活を

営んでいます。（すでに個室管理されています）よって発熱等で新型コロナが疑われるときは、住居で待機していただき往診チーム（医師・検査技師）で検体採取しPCR検査を実施します。結果判明まで住居待機となります。園内では新型コロナ陽性者を治療・管理できないので、新型コロナ感染が判明した時点で転院ということになります。しかし、転院先がない等を想定し閉鎖病棟（以下2病棟）を整備し、一時的な新型コロナ病棟としての運用も備えています。ここでの病棟整備に関してもゾーニング等で検査技師も参画しました。

PCR検査結果で対応が問われますので、祝休日の結果報告にも対応した体制を整えました。陽性の場合、検査技師が検査結果を感染管理医師、感染管理看護師、副看護部長へ連絡し感染管理医師が、園長に報告し園長が2病棟開棟指示を出します。開棟指示を受け看護部が2病棟運用スタッフを結集し2病棟（新型コロナ病棟）稼働となります。

現在のところ、十数件のPCR検査検体採取を行いました。幸いにも陽性者は出ていません。

新型コロナ終息後は、緑豊かな東京ドーム8分の敷地がある多磨全生園を訪れてみてください。例年8月に行われている納涼祭（園内で花火が打ちあがります）、11月に行われている全生園祭り、等近隣住民の方々も参加され盛大に行われています。特に納涼祭での花火は評判がよく多数の来場者があります。

隣接する国立ハンセン病資料館にもぜひ一度足を運んでハンセン病の歴史に触れてみてください。入館料は無料です。（現在は新型コロナのため休館になっています）

樹木希林が主演の映画『あん』も見てください当園がロケ現場です。園内に記念碑もあります。お越しの際はお声かけいただければご案内いたします。





在宅医療への参画

NHO 茨城東病院 小林 昌弘



茨城東病院では退院された患者さんが安心して退院後の生活が送れるようサポートを目的とした「患者さんの目線に立った、親切丁寧な医療機関」を目指すために平成 29 年 4 月 1 日から「地域医療サポートセンター」が開設されました。地域医療連携、入退院支援、在宅医療、医療福祉相談、感染管理の各部門と臨床検査科が一丸となり、入院前から退院後まで患者さんが安心して生活を送れるようサポートに取り組んでいます。

当院は呼吸器専門病院であるため、訪問診療の対象となる患者さんは当院での治療が必要となる呼吸器難病疾患、特に在宅酸素管理や在宅人工呼吸器管理が必要な方となります。在宅人工呼吸器管理が必要な方はもちろんのこと、在宅酸素管理を行っている患者さんにとっても自宅から病院までの移動は大きな負担となるため、私達が訪問することによって患者さんに係る負担の軽減を図っています。

訪問診療の開始当初は医師と診療看護師の 2 名体制で始まりましたが、臨床検査科においても POCT (point-of-care-testing) 検査を用いての訪問診療への参画を計画し、3 名体制での訪問診療を行っていました。後に診療看護師が行っていたバイタル測定や採血業務等を臨床検査技師が担うようになり、現在は主に医師と臨床検査技師の 2 名体制で訪問診療を行っています。

現在、4 名の臨床検査技師が交代で週に 1 回程度訪問診療に同行しています。対象エリアは片道 1 時間程度で訪問できる場所となっていますが、私自身の経験で最も遠方だったのは片道 50km (高速道路を使用して 1 時間程度でした) の北茨城市に行ったことでした。

訪問診療では医師が診察を行っている合間に、

臨床検査技師が採血、バイタル測定、POCT 検査や必要書類に患者さん・ご家族から署名をいただくなどの作業を行っています。POCT 検査の項目については訪問診療が必要となる呼吸器疾患の患者さんは心臓に負担が掛かっていることが多いため、主に NT-proBNP 検査を行っています。POCT 検査を訪問診療で実施することにより医師からは検査結果を医療現場で知ることにより直ぐに処置ができ、患者さんに見える形で検査結果が伝えられるので安心につながったとの意見をいただいています。また、訪問先では POCT 検査に興味を示してくれることからコミュニケーションツールとしても役立っています。その他には「なるほど・ザ・検査 ミニ知識」の配布を行い、患者さんからご質問があれば項目や検査について説明を行っています。

私自身は普段微生物検査を行っているため、患者さんと直に接する機会が多くはありませんでしたが、訪問診療に参加することによって検体の先には必ず患者さんがいることを改めて認識することができ、日々の業務の活性化にもつながっています。

まだまだ本取り組みは試行錯誤の日々ですが、患者さんが安心して退院後の生活が送れるよう地域医療サポートセンター共に臨床検査科が一丸となり取り組んでいきたいと思っています。





認定資格で LEVEL UP



二級臨床検査士（微生物学）

NHO 東京医療センター
須江 悠人



「やるなら今しかねえ」その言葉を胸に、受験することを決意しました。令和元年7月に二級臨床検査士試験（微生物学）を受験し、合格しました。

私は、病理検査室で6年間従事し、令和元年5月に微生物検査室へ異動しました。検査技師になってから早くも7年目を迎えた自分を追い込むため、そして配属されてから短期間で合格することによって、成果を示そうと思ったからです。とにかく、配属されて間もない受験だったので、日常分離される菌の名前を覚えるのも大変でしたし、グラム染色のやり方、鏡検、培地の見方、すべてにおいて苦勞しました。

実際の試験内容ですが、筆記試験、実技試験、鏡検に分かれています。国家試験問題よりさらに細かい生化学的性状や菌種を問われますが、過去問を十分に勉強しておけば問題ないと感じました。

微生物学の実技試験については、平板培地と患者背景や生化学的性状などの説明から菌種を同定する問題、サルモネラ菌の性状確認及び血清型別、McFarland0.5の菌液調製、グラム染色した菌の鏡検、性状確認培地への接種の手技が出題されました。ディスク拡散法に関しては、実際の培地の阻止円を測定し、耐性菌を判定できるかを問われました。

勉強方法はとにかくにも、過去問です。繰り返し解くことが大切だと思います。

何度も間違える問題はトイレに張り紙をして、学生時代の様に覚えました。日常業務では、検体を多く持たせてもらい、実際に検査をやってみました。鏡検については、主に単一菌が分離されやすい血液培養の塗抹をひたすら鏡検しました。グラム染色はいくつかの方法でできるよう、練習しました。代表的な菌は保存菌株を用いて、平板培地や性状確認培地へ培養し、各種平板培地での

特徴や生化学的性状を頭に叩き込みました。試験では菌種をフルスペルで記述するため、菌名のスペルを正しく書けるように今一度練習しました。ちなみに、私の覚え方の一例ですが、*Neisseria gonorrhoeae* は、“ゴノロホーエアエ”です（笑）。

寄生虫学では鏡検による虫卵の判定が出るので、形態の特徴を覚えるのは必須です。特にマラリアの分類と形態は多く出題されます。例年、二級臨床検査士試験の1ヶ月前に同学院主催の試験対策も兼ねた技術講習会が開催されます。特に虫卵の形態について大変勉強になるので、是非参加してみてください。

受験するにあたって私が用いた教材は、「JAMT 技術教本シリーズ 臨床微生物検査技術教本（丸善出版）」、「標準微生物学 第13版（医学書院）」、「最新臨床検査学講座 臨床微生物学（医歯薬出版）」、「二級臨床検査士・緊急検査士 資格認定試験 問題集 2014－2017年版（同学院）」です。ガイドラインは更新されていくので、新しいものをチェックすると良いと思います。

勉強内容はルーチン業務に必要な基本的なことばかりなので、受験することによって知識や技術を定着させることが出来ました。具体的には、当検査室では年に数件サルモネラ菌が分離されます。サルモネラ菌の性状を詳しく学べたことで、分離された際に検査をスムーズに進められるようになりました。また、エンテロコッカスの中でも分離頻度は少ないが臨床的には重要な菌種の同定や薬剤感受性判定にも役立っています。

微生物検査についてはほぼ経験がなかった私ですが、「一回で合格を勝ち取るんだ!」という強い気持ちを持つことにより合格できました。二級試験は、ルーチン業務をこなす上で必要になってくる知識や技術が問われます。勉強した内容は必ず役に立ちますし、合格は自信にも繋がります。もし受験するかどうか悩んでいる人がいたら、早めに受験することをお勧めします。

目指そう! 認定資格で LEVEL UP



日本臨床神経生理学会 専門技術師
(脳波分野・筋電図・神経伝導分野)

NHO 下総精神医療センター
竹ノ内 一雅



2020年10月に第12回日本臨床神経生理学会認定試験が実施され、私は脳波および筋電図・神経伝導の2分野における専門技術師として合格することができました。

この試験に挑戦しようと思ったきっかけは、新人の頃、脳波検査を指導して下さった主任から「患者さんの方が病気（てんかん）の知識が豊富なのに、検者が知識不足では患者さんが納得する検査説明ができない。もっと勉強するように。」とアドバイスしていただき、少しずつですが継続的に勉強するようになりました。学び始めると、生体内の電氣的活動により織り出された波形を解釈し原因を考察する神経生理学の奥深さに興味を持ち、しだいに魅了されていきました。

神経生理学の二級試験を2010年に取得して、次は神経生理学会の認定もと思ったのですが、受験資格を得るためには3年以上の学会在籍、専門医もしくは専門技術師の推薦、学会発表や指定講習会出席が必要などの条件があり、ハードルを高く感じてしまい、しばらく受験を諦めていました。しかし、縁あって中信松本病院（2018年に松本病院と合併）勤務時に神経生理学に精通された上司や先生方と一緒に働く機会を得ることができ、自己研鑽のためと一念発起し、認定試験を視野に入れ、神経生理学会へ入会しました。

受験資格を得るにあたっての講習会で「経験の浅い医師にてんかんと1回診断されたとしたら、専門医でも覆すのは難しい。そのために不幸になる患者さんが多くいることを知っておいてもらいたい。」と教えていただいたのが、とても印象的でした。普段の検査においてもアーチファクトとてんかん波の鑑別は、ベテラン医師でも難しいケースがあります。脳波検査を行う臨床検査技師は、アーチファクトの少ない精度の高い検査をすることで、正確な診断に寄与できると思います。

脳波検査をおこなう上で、心がけていることとして、なるべく結果について医師や検査科スタッフ等とディスカッションを行うようにしています。これにより、私は臨床所見やCT・MRI等と脳波を比較することで判読の幅が広がりました。さらに追加検査等の提案をすることで信頼が得られ、臨床との距離がより近くなったと思います。

私が試験のために使用した著書は、脳波検査：「モノグラフ 臨床脳波を基礎から学ぶ人のために第2版」、神経導検査：「神経伝導検査と筋電図を学ぶ人のために 第2版」です。また、問題集として「日本臨床神経生理学会 専門医・専門技術師 試験問題解説120」を活用しました。

実際の試験内容ですが、マークシート形式で基礎・ME分野20問（30分）、脳波分野60問（70分）、筋電図・神経伝導分野60問（70分）、および面接試験（今回は新型コロナウイルス感染予防のためレポート形式）がありました。脳波分野、神経伝導分野のマークシートでは、検査の原理、波形判読、最新検査法など、面接に替わるレポート試験では、普段検査する上での注意点など3問が出題されました。ME分野では差動増幅器などの基礎から医療安全まで幅広く出題されました。日ごろディスカッションしている内容も出題され、日常検査の延長線に認定試験があるのだと実感しました。

2020年度の試験は、新型コロナウイルスの影響で約半年延期になり、途中気が緩みかけましたが、ここで不合格だと今までお世話になった上司や先生方に合わせる顔がないと思い、「一日一問」の精神と“継続は力なり”の言葉を胸にコツコツと勉強を続けました。

最後になりましたが、ご支援いただいた関係者の皆さまに感謝を申し上げるとともに、この文章を読まれた方が神経生理学に興味を持ち、専門技術師が一人でも増えることを願っております。

集まれ 若手技師

How about your work ▶▶



NHO 東京医療センター 藤井 勇樹



東京医療センターに勤めている藤井勇樹です。専門学校を卒業後、東京医療センターに配属となり、今年で5年目を迎えました。

半年間は採血室を担当し、その後から現在までは輸血部門（血液管理室という検査室名です）を担当しています。

当院は ISO 15189 を取得しており、業務の理解度を確保する力量評価を実施しています。採血室では採血行為や身だしなみ、クレームを受けた際の対応、糖負荷試験の対応などに関する理解度の評価をしています。トレーニングの際に、「採血は回数をこなさないと慣れないからね」と言われましたが、実際に初めて採血をした時はとても緊張したことを今でも覚えています。

血液管理室では、血液製剤の準備や払い出し、血液型・不規則抗体検査、貯血式自己血採血や末梢血造血幹細胞採取の細胞調製や保管管理などを実施しています。緊急輸血が必要な患者さんが救急搬送されてきた際は迅速な対応が求められます。初めのころは指示をされてから行動していましたが、今では状況に応じた対応を自分で判断し、時にはスタッフと相談しながら対応する力量を身に着けることができました。自己血採血では、採血時に医師や看護師のサポート、採血後の自己血の保管や管理、払い出しなどを行っています。採血前の問診や採血中の患者対応は採血室を担当していた時の経験を生かし、患者さんの不安を少しでもなくせるように努めています。

夜間休日は、血液管理室スタッフ以外にも輸血業務を行うため、そのためのトレーニング指導

に苦労しました。元々、人に何かを教えるのは好きでしたが、どのように話せば相手が理解しやすいか、人によって感じ方や解釈が違うこともあるため、指導方法にとっても悩みました。今でも悩んでいますが、日勤帯のスタッフ目線だけでなく、夜間休日に業務を行うスタッフの目線になって考えながら、夜間休日の業務内容を伝えるようにしています。

当院でも SARS-CoV-2 遺伝子検査が導入されました。新たなことに取り組むのは、楽しさもあり、不安もありますが、自身のスキルアップになると思います。休日の当番として PCR 検査を実施しています。新型コロナウイルス感染拡大の中、臨床検査技師として貢献することができていることをうれしく思います。

検査業務以外にも、検査科全体の業務に関して困ったことなどを、若い技師を中心に討議するワーキンググループにも参加しています。昨年度は検体検査の自主運営化が始まり、夜間休日の業務内容見直し、トレーニングの日程調整やシフトの見直しなどについて話し合いをしました。気持ちよく仕事ができる環境を作り、より良い検査科を目指して引き続き参加していきたいと思っています。

検体検査の自主運営化に伴い、より多くのことが学べる環境になりました。まだまだ知らないことが多くあります。日々の業務の中で様々な症例を経験できているため、輸血分野のみならず、ほかの分野の勉強もしながら自己研鑽に努めたいと思います。

また、輸血を担当していることもあり、数年後には認定輸血検査技師取得を目指したいと思っています。現時点では、まだまだ知識や経験が不足していますが、日々の業務や外部開催の勉強会などに参加し、精いっぱい知識を深めていきたいと思っています。

会員のひろば

NHO 栃木医療センター
秋山 卓思



栃木医療センター 臨床
検査科 秋山卓思と申しま
す。現在、コロナ禍で外出自粛などの制限をさ
れている中で、皆様はどうお過ごしでしょうか。
今回、私がコロナ禍になったからこそ、目を向
けた事柄を紹介させていただきます。

一つ目が料理です。

最近、我が家では比較的育てるのが簡単なトマ
トやバジル、ミント、人参などの家庭菜園をす
るようになりました。そして、自分たちで育て
た野菜を使って料理をしています。

今回、写真に載せているのは、実際に育てた野



菜、その野菜を使っ
たミートパスタと私
が作った自家製ジン
ジャーエールの写真
です。自家製ジン
ジャーエールに関し
ては、コロナ禍にな
る前に、何度か行っ
ていたカフェで飲ん
だ自家製ジンジャー
エールが美味しあっ
たので、自分も美味
しいジンジャーエール
を作りたいと思

い、お家時間を利用してレシピを色々調べて
作るようになりました。最初は、ジンジャーの
辛さの調節やシロップと炭酸水の比率が上手く
調節できませんでした。今では、気分次第で味や風
味の調節が出来るようになり、他の人にも振舞
えるようになりました。上手く行くようになる
までは正直、理科の実験をしている様な気分にな
る時がありました（笑）。

コロナ禍になる前は、休日は外食をする機
会が多かったのですが、家族で収穫した野菜
を使って一緒に料理して食べるのも、意外に良
いもので、気持ち的にいつもより美味しくご飯
が食べられる気がします。また、普段何気なく
食べている料理にも関心を持つようになりました。

今後も、料理のレパートリーを増やして家族
サービスが出来たらなと思っております（笑）。

二つ目が、イラストを描くことです。

お家時間が増える中で、テレビを観る機会が増
えてきました。そんな中、家族でよく観るアニ
メがあります。それは、「僕のヒーローアカデ
ミア」です。ご存知の方もいらっしゃるのでは
ないかと思います。5月に東京で僕のヒーロー
アカデミア展を見に行く予定でしたが、コロナ
の影響で公演一部中止になってしまい、残念に
思っております。

そんな中、妻がアニメを見ながら何気なく
iPad proで描いている絵を見てびっくりしまし
た。ものの数分で、素人目からは完成度の高い、
デクとお茶子が iPad pro の画面に現れました。
こんな身近に、イラストの達人が居たとは…。
そこから、私のやる気スイッチが入り、イラス
トを描くことに興味を持ち、暇な時間は絵を描
くようになりました。まだ、皆さんに見せるほ
どの腕前では無いのですが、いずれ、私も皆さ
んに披露できるようなイラストが描けるようにな
ったら良いなと思っております。

以上、普段気に留めていなかった事に、ふと
目を向けてみると意外に面白かったり、興味深
かったりした、私の平凡な日常生活の一部を在
り来りな内容ではありましたが、紹介させて頂
きました。今後も、コロナ禍がいつまで続くの
の分かりませんが、今やれる中で小さなことで
も興味と楽しみを見つけて過ごして行けたらと
思います。読んでいただいて少しでも共感して
いただける事があれば嬉しく思います。



新任理事挨拶



NHO 横浜医療センター 遠藤 隆

今年度より関信支部 副支部長を拝命いたしました。横浜医療センターの遠藤隆と申します。学術では集合型の学会及び研修会等が開催されていない状況ですが、今年度より導入予定の Zoom ウェビナーを使用したオンライン研修会を多く取り入れて行きたいと考えております。それにより遠方の会員の方やオンデマンド形式をとることで日時、時間を気にせず研修会に参加していただけるように心がけて行きたいと思っております。

NHO 信州上田医療センター 梅戸 克之

この度、令和3年度の国臨協関信支部 事務局長を拝命いたしました梅戸克之です。このような大役を仰せつかりまして、改めて任務の重大さに身の引き締まる思いです。まだ右も左も分からず、教えてもらうことばかりで、迷惑をかけていますが、一日でも早く関信支部の一戦力になれるよう、日々精進していく所存です。まずは会員の皆さんが関信支部に満足していただけるように努め、コロナ禍の長期化に伴い、創意工夫で関信支部の運営を考えて参りますので、よろしくお願いいたします。

国立病院臨床検査技師協会 関信支部 役員名簿

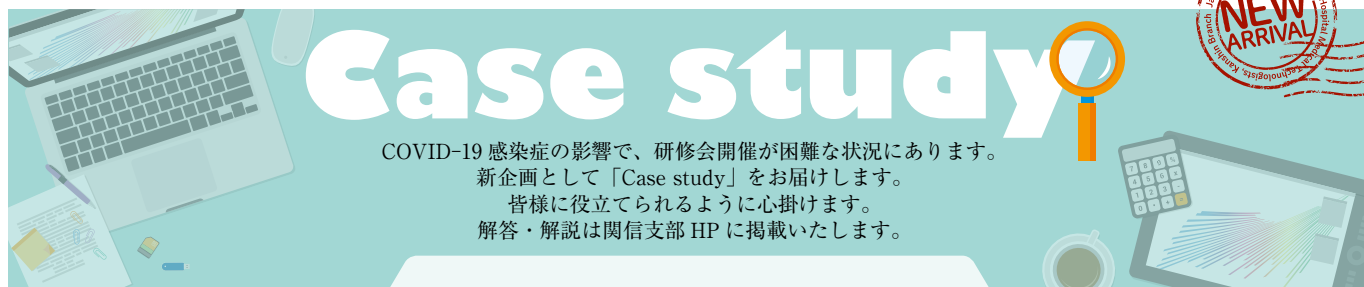
役 職 名	氏 名	施 設 名
支 部 長	吉 田 茂 久	NHO 渋川医療センター
副 支 部 長	遠 藤 隆	NHO 横浜医療センター
副 支 部 長	椎 名 将 昭	NHO 水戸医療センター
事 務 局 長	梅 戸 克 之	NHO 信州上田医療センター
理 事	井 田 貴 明	NHO 相模原病院
理 事	市 川 遼	国立国際医療研究センター国府台病院
理 事	岡 村 康 子	NHO 埼玉病院
理 事	木津谷 亮	NHO 甲府病院
理 事	竹 内 智 也	NHO 東京医療センター
理 事	中 嶋 菜緒美	NHO 千葉医療センター
理 事	松 林 秀 弥	国立がん研究センター中央病院
理 事	屋 良 朝 仁	国立国際医療研究センター病院
相 談 役	前 島 基 志	NHO 霞ヶ浦医療センター
監 事	瀬 下 明 子	NHO 栃木医療センター
監 事	山 崎 正 明	NHO 下総精神医療センター
役員推薦委員	竹 内 智 明	国立国際医療研究センター国府台病院
役員推薦委員	沼 田 ますみ	NHO 小諸高原病院
役員推薦委員	山 田 大 助	NHO 神奈川病院

編集後記

皆様、いかがお過ごしでしょうか？異動された方や新採用の方におかれましては、そろそろ慣れてきたところかと思えます。また反対に疲れが出てきたころではないでしょうか……

国臨協関信支部におきましては、新しい年度の執行部になりました。見飽きた顔や見覚えのある顔、そして新しい顔、様々ですが何卒宜しくお願いいたします。

さて、いまだにコロナ禍の状況が続いておりますが、昨年度は支部活動も思うようにいきませんでした。本年度におきましてはZoomを活用した研修会やWebを使った学会を企画しておりますので、ご参加いただきますようお願いいたします。また、Zoomを活用し、地区会研修会等のご利用も可能となります。こちらもぜひご活用ください。 広報 椎名



COVID-19 感染症の影響で、研修会開催が困難な状況にあります。
新企画として「Case study」をお届けします。
皆様に役立てられるように心掛けます。
解答・解説は関信支部 HP に掲載いたします。

Question

69歳の男性、胃癌に対する胃全摘術後、吻合部のリークおよび腹膜炎で抗菌薬治療と完全中心静脈栄養を4週間実施した。腹腔内の感染症がほぼ終息し、抗菌薬中止後4日目に突然、39.2℃の高熱が出現したが、意識障害はみられなかった。

身体所見：体重 52kg

検査所見

尿一般	異常なし	
血液	白血球：9,600/ μ L	
生化学	BUN：35mg/dL	クレアチニン：1.1mg/dL
免疫	CRP：1.3mg/dL	β -D-グルカン：15.2pg/mL (基準11.0未満)

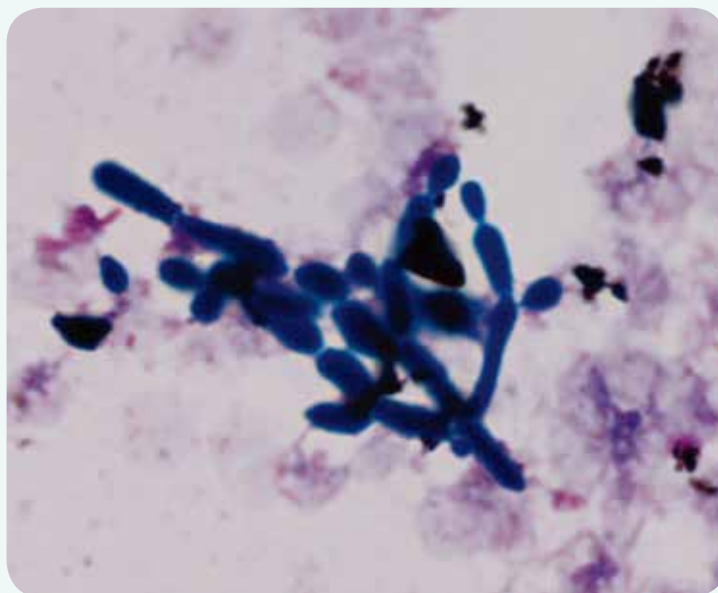
胸部X線写真に異常はない。

同日採取した血液培養が陽性となった。血液培養のGram 染色標本を下記に示す。

適切な対応を2つ選べ。

1. 脳脊髄液検査をおこなう
2. 眼内炎の有無を確認する
3. 中心静脈カテーテルを抜去する
4. 解熱後1週間の治療で終了とする
5. 検出菌の同定感受性を確認後、治療を開始する

若林弘 (NHO 相模原病院) / 作成



症例大募集

関信支部では CaseStudy に掲載する症例を募集しております!!
こんな症例があった、この内容について症例を交えて知りたいなど様々なご意見お待ちしております。症例が採用された方には粗品を進呈致しますので、奮ってご応募ください。
ぜひ、あなたの出会った症例を共有させてください☆

Mail : kanshin@kanshinshibu.org



ご質問は関信支部までご連絡ください
Mail:kanshin@kanshinshibu.org



関信支部ホームページ

解答・解説は関信支部 HP に8月10日より掲載します!